

# ME 育成 講座

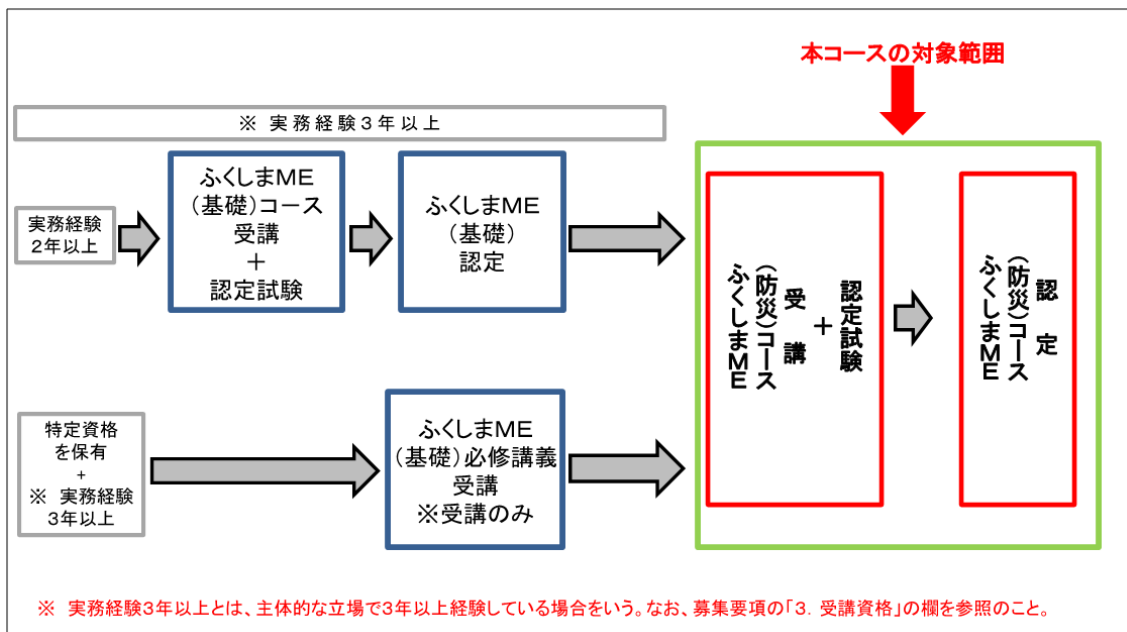
## 平成30年度第1回「ふくしまME（防災）コース」

### 募集要項

#### ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会

- ・申請書受付期間：平成30年9月3日（月）～平成30年9月19日（水）
- ・受講者選抜結果通知発送：平成30年10月10日（水）
- ・受講料払込期間：平成30年10月11日（木）～平成30年10月25日（木）  
（期日厳守）
- ・実施場所：福島県建設センター 2階会議室（福島市五月町）  
日本大学工学部 1号館123教室 外（郡山市田村町）  
なお、現場実習は、福島県会津方部において実施予定。
- ・育成講座：1週目 平成30年11月10日（土）  
2週目 平成30年11月16日（金）・17日（土）  
3週目 平成30年11月24日（土）  
4週目 平成30年12月 1日（土）  
5週目 平成30年12月 8日（土）
- ・認定試験：平成30年12月15日（土）
- ・認定試験合格者決定：平成31年1月31日（木）

○本コースは、「ふくしまME（基礎）」の認定を受けかつ受講要件を満たす者、及び「ふくしまME（基礎）必修講義」の受講修了証の交付を受けた者が受講することができます。（下図参照）



## ME 育成講座の目的と意義

社会インフラは、豊かな国民生活の実現及び自立的で個性豊かな地域社会の形成等に寄与する国民共通の貴重な財産であります。

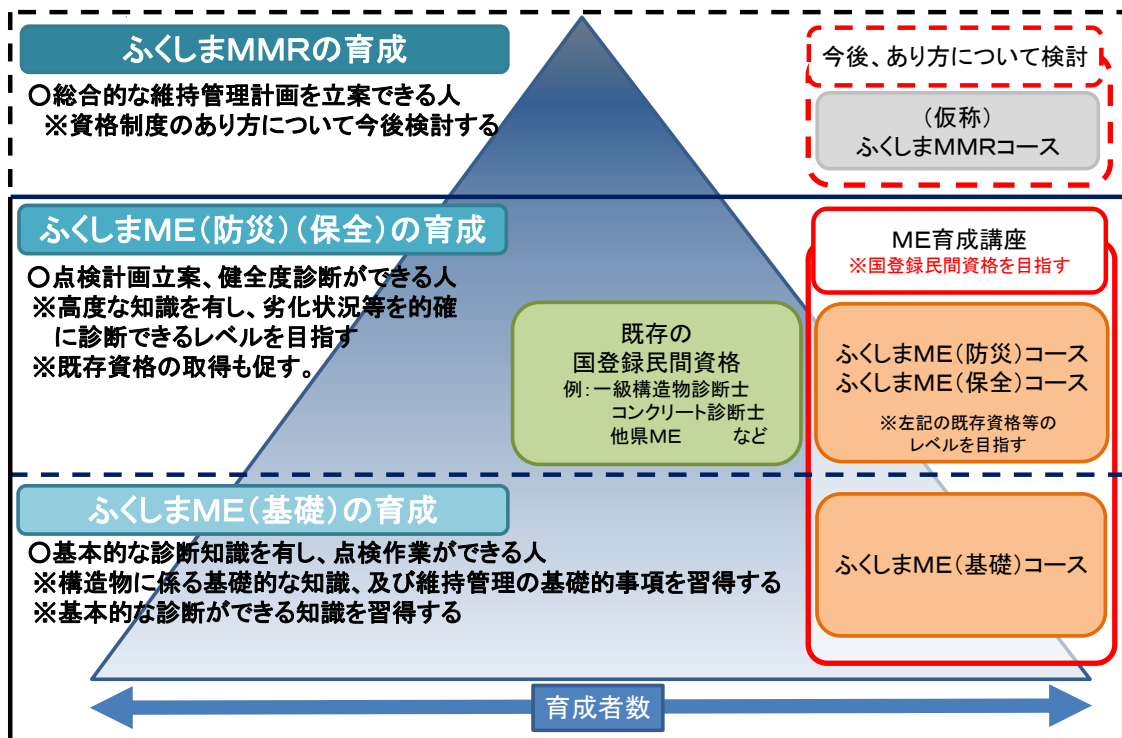
これら社会インフラは、高度経済成長期に集中的に整備されたため、今後急速に老朽化が進むことから、その維持・修繕、更新の必要性、緊急性が全国的に課題となっております。

他方、本格的な社会インフラの維持管理・更新時代を迎える中、維持・修繕分野においては、行政を始め、地域の建設業やコンサルタントに携わるメンテナンス技術者の人材不足が深刻な問題となっております。

このような中、平成 29 年 1 月 12 日「福島県建設業審議会」の答申において、「インフラメンテナンス技術者育成・確保に関する産学官による連携強化」について明記され、インフラメンテナンス技術者育成に積極的に取り組む必要があることが報告されました。

このため、本協議会では、「地域のインフラは、地域自らが守る」考えの下、福島県の地域特性を把握するとともに、橋梁、トンネル、舗装、斜面、河川構造物、防災施設等、社会インフラ全般に係る各種点検やメンテナンスに関する専門的かつ実践的な知識を有し、社会インフラマネジメントの中核となる技術者を安定的に育成することを目的として、図-1 に示すように、育成目標レベルに合わせて「ふくしまME（基礎）コース」、「ふくしまME（防災）コース、ふくしまME（保全）コース」、「(仮称) ふくしまMMR コース」を実施します。

基礎から応用にわたり多くの技術者の育成に取り組むことにより、社会インフラの品質確保に努め、県民の安全・安心に貢献していくこととしております。



※1 ME:「メンテナンス・エキスパート」構造物等の維持管理に関する高度な知識を持ち、劣化状態等を的確に診断し対処できる技術者を意味する。  
※2 MMR:「メンテナンス・マネージャー」構造物等の維持・修繕に関する日常的管理や、保全計画の策定等ができる技術者を意味する。

図-1 各コースと育成目標レベル

## ME 育成講座 「ふくしまME (防災) コース」の概要及び実施スケジュール

本コースは、公共土木施設に関して点検計画立案、健全度診断ができる技術者「ふくしまME (防災)」の育成を図るものです。

内容は、5週（講義4週+実習1週/2日）と1週（認定試験〔筆記+面接〕）の6週間で構成され、講義から認定試験までを一貫して行いますので、講義又は実習のみ受講することは認めません。

本コースは、福島県内の地質・地盤、および降雨や地震などの自然環境下で、道路構造物のうち、斜面崩壊や落石、雪崩、また盛土の変状による道路への影響を防止、また抑止するための施設（各種シェッドを含む）、地盤変状や塩害などの影響を受けるトンネル構造物を対象とし、それらの健全度の診断と対策に関する技術を習得することを目的としています。

平成30年度第1回の実施スケジュール及び講師等は下記のとおりです。

特別講話*		出前講座として、福島地方気象台防災管理官 島津勝也氏を講師に迎え、『福島県の降雨・雪害の現状と課題』と題して講演いただくものです。		
	研修会場	講義時間	講義内容	講師
1 週目 11月10日(土)	福島県建設センター 2階会議室	9:15～9:30	ME研修の意義、実施要項説明	福島県、事務局
		9:30～10:30	福島県の社会基盤施設の維持管理の現状	福島県
		10:40～12:10	【特別講話】*	
		13:00～14:00	福島県の地形・地質および工学的課題	(一社)福島県地質調査業協会 渡部貴史
		14:10～15:10		(一社)福島県地質調査業協会 石田洋之
		15:20～16:50	環境作用によるコンクリート・鋼構造物の劣化	日本大学工学部 子田康弘准教授 日本大学工学部 笠野英行専任講師
2 週目 11月16日(金) 17日(土)	実地演習1 於：会津方部	9:00～12:00	移動等	日本大学工学部 中村晋教授
		13:00～17:00	斜面安定・落石、シェッドの診断に関する現場実習	日本大学工学部 仙頭紀明准教授
	実地演習2 於：会津方部	9:00～12:00	斜面安定・落石、シェッドの診断に関する現場実習	(公社)日本技術士会東北本部福島県支部 島良一
		13:00～15:00	意見交換等	他
		15:15～17:00	移動等	
3 週目 11月24日(土)	日本大学工学部 1号館 123教室	9:00～11:10 (1回10分休憩)	盛土安定診断と安定度評価	日本大学工学部 仙頭紀明准教授
		11:20～12:50	盛土点検計画と安定工	(公社)日本技術士会東北本部福島県支部 増子裕一
		13:50～15:20	斜面安定診断と安定度評価	日本大学工学部 中村晋教授
		15:30～17:00	斜面安定施設の点検計画、診断	(公社)日本技術士会東北本部福島県支部 島良一
4 週目 12月1日(土)	日本大学工学部 1号館 122教室	9:00～10:00	斜面安定施設の対策工	(公社)日本技術士会東北本部福島県支部 島良一
		10:10～11:40	落石診断と安定度評価	日本大学工学部 中村晋教授
		12:40～14:10	落石防護工	(公社)日本技術士会東北本部福島県支部 小沼千香四
		14:20～16:30 (1回10分休憩)	ロック/スノーシェッドの概説	(公社)日本技術士会東北本部福島県支部 長尾晃
5 週目 12月8日(土)	日本大学工学部 1号館 122教室	9:20～11:30	ロック/スノーシェッドの点検、診断	(公社)日本技術士会東北本部福島県支部 八巻誠一
		12:30～14:00	トンネルの構造、点検体系、定期点検	(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部 尾崎裕司
		14:10～15:40	トンネルの調査	(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部 鶴原敬久
		15:50～17:20	トンネルの対策工	(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部 鶴原敬久
6 週目 12月15日(土)	日本大学工学部 1号館 131教室	9:00～12:00	認定試験(筆記試験)	
		13:30～17:30	認定試験(口頭試問)	※試問時間は、1人15分程度。

**ME 育成講座 平成30年度 第1回**  
**「ふくしまME (防災) コース」 募集内容**

**1. 募集人員**

50名程度

**2. 受講費用等**

受講料 (受験料含む) 200,000円

(ただし、ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会に参画する団体又は行政機関に属する者は、100,000円とする。)

なお、受講者決定通知後に参加を取消した場合、育成講座の途中で欠席となった場合でも受講料は返還いたしません。

**3. 受講資格**

受講申請者は、下記のいずれかに該当する必要があります。

(1) ふくしまME (基礎) 認定者

平成30年9月1日現在まで「ふくしまME (基礎)」に認定され、かつ次の実務経験を持つ者。

① 官公庁土木技術者 (関係団体の土木関係職員含む)

官公庁の土木技術者等で、社会資本の維持管理業務、または、設計・計画、監督業務を3年以上経験している者。

② 民間建設関連業土木技術者

社会資本の点検・調査、新設・補修・補強に関わる設計・施工管理業務などを主体的な立場で3年以上経験している者。

※主体的な立場とは自分の意志・判断に基づき業務を遂行できる立場をいい、者とは委託業務は担当技術者、施工管理業務は現場代理人などを指す。

③ 現在の所属機関のみでは上記①及び②の要件を満たしていない土木技術者等  
複数の所属機関での実務経歴がある場合は、新旧の所属機関で実施した合計の経験年数を3年以上有する者。

(2) 「ふくしまME (基礎) 必修講義」受講修了者

平成30年9月1日まで「ふくしまME (基礎) 必修講義」に係る受講修了証の交付を受けた者。

ただし、当該受講申請において、受講を希望又は選択するMEコースに関して「防災」を選択した者に限ります。

**4. 受講申請手続き**

(1) 申請期間

平成30年9月3日 (月) ～ 平成30年9月19日 (水) (消印有効)

## (2) 提出方法

ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会事務局まで、必ず「簡易書留」にて、上記の申請期間内に送付すること（9月20日（木）以降の持ち込み及び消印は受理しません）。なお、封筒の表面の左下隅に「ふくしまME（防災）コース申請書類在中」と朱書きすること。

## (3) 提出書類

※提出書類は、申込み年月日、証明年月日などを除き平成30年9月1日現在で作成すること。

### ① 受講申込書

官公庁土木技術者等、民間建設関連業土木技術者とも、（様式1）に記入。

### ② 証明写真2枚

申請3ヵ月以内に撮影した顔写真、無帽、正面向きの縦4.5cm、横3.5cmのもの。2枚とも写真裏面に氏名を記入し、うち1枚は上記①の申請書（様式1）に貼付し、もう1枚は糊付けせず申請書にクリップで留めてそのまま提出（2枚ともポラロイド、カラーコピー不可）。

### ③ 実務経歴書

#### ア 官公庁土木技術者等

受講資格を確認するため、（様式2）に記入。

なお、自分より上位の管理職の職名・氏名を記入し、押印したものを提出すること。

#### イ 民間建設関連業土木技術者

受講資格を確認するため、（様式3）に記入。

なお、現所属企業の会社名、代表者名を記入し、代表者印を押印したものを提出すること。

また、受講資格を満たすため現在の所属企業以外での実務経歴も必要な場合には、旧所属企業分についても（様式3）により旧所属の会社名、代表者名を記入し、旧所属の代表者印を押印したものを併せて提出すること。

（注1）個人及び事業主の方が、自分で自分の経歴を証明することは出来ません。第三者（組合や元請け又は同業者等）から、証明を頂いてください。

### ④ 認定証、受講修了証

#### ア 「3. 受講資格（1）」に該当する者

平成30年9月1日現在有効な「ふくしまME（基礎）」に係る「認定証」の写し。

#### イ 「3. 受講資格（2）」に該当する者

平成30年9月1日現在有効な「ふくしまME（基礎）必修講義」に係る「受講修了証」の写し。

#### (4) 郵送提出先

〒960-8061 福島県福島市五月町4番25号(福島県建設センター6階)

(一社) 福島県測量設計業協会内

ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会 事務局

### 5. 受講者の選抜

#### (1) 選抜方法

受講申請書類に基づき厳正に審査し、受講者を選抜します。

なお、応募者多数の場合は、応募者の年齢、所属先、地域性、実務実績を考慮して、受講者を選抜します。

#### (2) 選抜結果の通知

平成30年10月10日付けで、選抜結果の通知書を本人宛に郵送します。

なお、この日より1週間を経過しても選抜結果通知書が届かない場合には、事務局までお問い合わせください。

(注) 選抜結果通知の際、受講料納付方法についてお知らせしますが、指定した期日までに受講料の入金がない場合には、受講できませんのでご注意願います。

### 6. 個人情報の取扱い

提出された申込書等に記載された氏名、生年月日、住所、電話番号等の個人情報は、ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会事務局が責任をもって管理します。

### 7. 受講修了、認定等について

#### (1) 受講修了証の交付

本コースの全課程を受講した者に対し、受講修了証を交付します。

なお、レポート課題等の未提出が一部でもあった場合や、遅刻、欠席が一部でもあった場合には、原則として受講修了証は交付しません。

ただし、遅刻又は不可避の理由<sup>(※1)</sup>による欠席<sup>(※2)</sup>の場合のみ、次回のME育成講座平成31年度第1回「ふくしまME(防災)コース」(以下、「次回防災コース」という。)において、受講できなかった講義を一度のみ受講料免除の上受講でき、受講することで本コースの全課程を受講したものとして受講修了証を交付します。

※1 不可避の理由：3親等以内の忌引き、不慮の事故などを指します。

※2 欠席が2日を超える場合を除きます。

#### (2) 認定試験の目的と受験資格等

ア 認定試験は、福島県の地象、気象環境を認識するとともに、主に道路構造物を対象とした社会基盤施設の災害や劣化を踏まえた点検や診断、さらに対策を含む維持管理の業務を主体的に実施する能力を有しているとともに、福島県におけるMEとして留意すべき事項を把握し、若手技術者の範となり育成に努める意欲を有していることの確認を目的とし、筆記試験と口頭試問を実施します。

- ・筆記試験：専門知識の習得状況と維持管理に関する経験と判断力など実務能力を確認する。
- ・口頭試問：福島県における社会基盤施設の維持管理に関するポリシーを理解し、ふくしまMEの役割を認識していること、適切な判断力に基づく実務能力を有していることを確認する。

イ 本コースの受講修了証の交付を受けた者のみ、認定試験を受けることができます。

なお、今回の認定試験において下記①～③に該当する者は、次回防災コースの認定試験を一度のみ受験することができます。さらに、下記①及び②に該当する者については、次回防災コースの受講を免除します。

- ① 認定試験において不合格となった者（受験料10,000円）
- ② 受講修了証の交付を受けたが受験できなかった者（受験料 無料）
- ③ 遅刻、欠席した者で、次回防災コースを受講し受講修了証の交付を受けた者（受験料 無料）

### （3）認定証の交付

認定試験後、審査委員会、協議会の審議を経て、試験に合格した者には「ふくしまME（防災）」の認定証を交付します。

なお、認定証の有効期間は、5年間（更新制）とします。

### （4）合格者の発表

平成31年2月上旬に、合格者の受講番号をふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会HP上に掲載するとともに、「ふくしまME（防災）」の認定証を本人宛に郵送します。

## 8. CPDプログラムについて

本コースはCPD（公益社団法人土木学会）、CPDS（一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会）プログラムの認定対象予定講習です。

## 9. その他

平成30年度第1回「ふくしまME（保全）コース」の受講を希望する場合は、別途当該募集要項により申し込みを行ってください。

## 10. 問合せ先

〒960-8061 福島県福島市五月町4番25号（福島県建設センター6階）

（一社）福島県測量設計業協会内

ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会 事務局

TEL：024-563-1321 又は 024-523-1728

URL：<http://www.fukushima-infra-maintenance.jp/>

(様式1)

ME育成講座 平成30年度第1回 「ふくしまME(防災)コース」

— 受講申込書 —

申込み年月日 平成 年 月 日

写真を貼る  
H：4.5cm  
W：3.5cm  
※顔写真  
※裏面に氏名を記入し、  
全面糊付けのこと

フリガナ 氏 名			印
生年月日	昭和・平成 年 月 日(満 歳)		
現 住 所	〒 —		
電 話 番 号	TEL:	携帯:	
勤 務 先			
勤 務 先 住 所	〒 —		
	TEL:	FAX:	
連絡先 E-Mail			
勤務先の所属団体名	①福島県建設業協会 ②福島県測量設計業協会 ③福島県地質調査業協会 ④福島県法面保護協会 ⑤ふくしまインフラ長寿命化研究会 ⑥日本技術士会東北本部福島県支部 ⑦福島県土木施工管理技士会 ⑧ふくしま市町村支援機構 ⑨県・市町村 ⑩( ) ※該当する番号に○を一か所のみ付すこと。その他の場合は、具体名を記すこと。		
最 終 学 歴	年 月	学 校 ・ 学 部 ・ 学 科	
	S・H 年 月		
土 木 に 関 する 職 歴 [ 延べ経験年数 ] 年 ヲ月	年 月	所 属	
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
土 木 に 関 係 す る 公 的 資 格	年 月	名 称 ( 登 録 番 号 等 )	
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		
	S・H 年 月		



(様式2)

ME育成講座 平成30年度 第1回「ふくしまME(防災)コース」  
— 実務経歴書 —

受講申込者氏名

◆ 土木に関する主要な実務経歴書 (官公庁土木技術者等の経歴証明用) ◆

所属	職名 (担当)	関係実務	勤務期間	
			～	年 カ月
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			～	
			※計	年 カ月

上記のとおり相違ないことを証明します。 平成 年 月 日

役職名

氏名

印

※勤務期間のうち、重複期間は合計に含みませんのでご注意ください。

(様式3)

ME育成講座 平成30年度 第1回「ふくしまME(防災)コース」  
 — 実務経歴書 —

受講申込者氏名

◆ 土木に関する主要な実務経歴書（民間建設関連業土木技術者の経験証明用） ◆

業務名	受注者名	関係実務	発注者名	勤務期間	
				～	年 月
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				～	
				※計	年 月

上記のとおり相違ないことを証明します。 平成 年 月 日

会社名

代表者名

⑩

※勤務期間のうち、重複期間は合計に含みませんのでご注意ください。

(様式1)

記入例

ここには何も記入しないこと

# ME育成講座 平成30年度第1回「ふくしまME(防災)コース」

## — 受講申込書 —

申込み年月日 平成 年 月 日

フリガナ	フクシマ タロウ		※姓と名の間は 一字空けること	写真を貼る H : 4.5cm W : 3.5cm ※顔写真 ※裏面に氏名を記入し、 全面糊付けのこと
氏名	福島 太郎	(印)		
生年月日	昭和・平成 ○○年 ◆◆月 △△日 (満●●歳)			
現住所	〒000-0000 ○○市 △町 字 ○○○番地			
電話番号	TEL:000-0000-0000 携帯:090-0000-0000			
勤務先	(株)○○○○建設 △部 / 福島県○○建設事務所 △部 等 ※所属部名まで記入のこと。			
勤務先住所	〒000-0000 ○○市 ◆町 字 ●●●●番地 TEL:000-111-2222 FAX:000-333-4444			
連絡先 E-Mail	※メールアドレスを記入のこと			
勤務先の所属団体名	①福島県建設業協会 ②福島県測量設計業協会 ③福島県地質調査業協会 ④福島県法面保護協会 ⑤ふくしまインフラ長寿命化研究会 ⑥日本技術士会東北本部福島県支部 ⑦福島県土木施工管理技術士会 ⑧ふくしま市町村支援機構 ⑨県・市町村 ⑩( ) ※該当する番号に○を一所のみ付すこと。その他の場合は、具体名を記すこと。			
最終学歴	年月	学校・学部・学科		
	S(H)●●年 ●●月	○○大学 ◆◆学部 △△科		
土木に関する職	年月	所属	※主なものを記入 記入欄が不足する場合は、行を追加して記入のこと。	
	S(H)●●年 ●●月	(株)○○○○建設 採用		
	S(H)●●年 ●●月	(株)○○○○建設 ○○課		
延べ経験年数	S(H)●●年 ●●月	(株)○○○○建設 ○○課 主任		
年 ヲ月	S(H)●●年 ●●月	(株)○○○○建設 ○○課 課長	※現在の所属	
土木に	年月	名称(登録番号等)		
	S(H)●●年 ●●月	一級土木施工管理技士(登録番号 No.00000)		
	S(H)●●年 ●●月	測量士(登録番号 No.00000)		
土木に	S(H)●●年 ●●月	道路橋点検士(登録番号 No.00000)		
土木に	●●年 ●●月	一級構造物診断士(登録番号 No.00000)		
土木に	●●年 ●●月	技術士(建設)(登録番号 No.0000)		
土木に	●●年 ●●月	RCCM(道)		
土木に	S・H 年 月		※主なものを記入 記入欄が不足する場合は、行を追加して 記入のこと。	
土木に	S・H 年 月			

※平成30年9月1日現在の延べ勤務年数を記入のこと。なお、端数切り捨てのこと。

(様式2)

記入例

ここには何も記入しないこと

ME育成講座 平成30年度 第1回「ふくしまME(防災)コース」  
— 実務経歴書 —

受講申込者氏名

◆ 土木に関する主要な実務経歴書 (官公庁土木技術者等の経験証明用) ◆

所属	職名 (担当)	関係実務	勤務期間	
〇〇建設事務所〇〇部〇〇課	技師 (設計・管理担当)	監督業務	H〇.〇~H〇.〇	1年6ヵ月
土木部〇△課	副主査 (管理担当)	河川維持管理業務	H〇.〇~H〇.〇	1年
土木部◆◆課	主査 (管理担当)	道路維持管理業務	H〇.〇~H〇.〇	1年
※ 重複期間を除いた合計3年以上の実務経歴を記入すること。 現職場のみでは実務経歴が3年以上とならない場合には、 従前の実務経歴を加えて記載すること。				
			※計	3年6ヵ月

※自分より上位の管理職の役職名・氏名を記入し、押印する。

平成 〇〇年 〇〇月 〇〇日

役職名 ○ △ 課 長

氏 名 ○ ○ ○ ○ 印

(様式3)

記入例

ここには何も記入しないこと

ME育成講座 平成30年度 第1回「ふくしまME(防災)コース」  
— 実務経歴書 —

受講申込者氏名

◆ 土木に関する主要な実務経歴書 (民間建設関連業土木技術者の経験証明用) ◆

業務名	受注者名	関係実務	発注者名	勤務期間	
平成〇年度 ○道路△法面施工業務	(株)〇〇建設	施工管理・現場 代理人	○建設事務所	H〇.〇~H〇.〇	8ヵ月
平成◆年度 ○橋桁補修業務	(株)〇〇建設	維持施工管理・ 現場代理人	△建設事務所	H〇.〇~H〇.〇	1年6ヵ月
平成△年度 ○道路◆舗装業務	(株)〇〇建設	施工管理・現場 代理人	◆市役所	H〇.〇~H〇.〇	1年6ヵ月
※ 現所属企業における重複期間を除いた合計3年以上の主体的な立場で携わった実務経歴を記入すること。 ※ 「関係実務」欄には、実務内容の他、当該業務に携わった立場も明記すること。 【例】委託業務の場合→担当技術者 など 施工管理業務の場合→現場代理人 など					
なお、受講資格を満たすため旧所属企業分の実務経歴書も併せて提出する必要がある場合は、この(様式3)を用いて旧所属企業における実務経歴書を作成し、旧所属企業の会社名、代表者名を記入し、旧所属企業の代表者印が押印された実務経歴書を提出すること。					
				※計	3年8ヵ月

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成 〇〇年 〇〇月 〇〇日

※ 現所属企業の会社名、代表者名を記入し、代表者印を押印する。

会社名 (株)〇〇建設

代表者名 ○ ○ ○ ○ 印

※勤務期間のうち、重複期間は合計に含まませんのでご注意ください。